令和７年１２月１８日(木)陸奥新報（１面）

弘大が優秀賞受賞

ウェルビーイング高める活動展開

ビッグデータ研究評価

弘前大学健康未来イノベーション研究機構が、ウェルエイジング経済フォーラム主催の「Well-being&Age-tech 2025 Award」で最高の大臣賞に次ぐ優秀賞を受賞した。COIおよびCOI-NEXTプロジェクトの拠点として、健康を基軸に「ウェルビーイング（心身、社会的に健やかで幸せな状態）な地域社会モデル」実現を目指す取り組みが高く評価された。同大副学長で、同機構長の村下公一教授は「名誉ある賞を頂き、今後の研究活動の弾みになる」と述べ、今後の取り組みに一層の意欲を示した。

同アワードは、超高齢化社会のウェルビーイングを高める科学技術やイノベーションが対象で、特に優れた取り組みを専門家が選び表彰する。ウェルエイジング経済フォーラムが主催し、経済産業省、文部科学省、農林水産省など各省庁が後援して実施され、今月16日に東京都内で各賞の発表と表彰式が行われた。

弘前大は今年1月、国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されており、今月12日には「グローバルWell-being総合研究所」開所式を行い、ウェルビーイング研究の最先端の拠点形成を目指して取り組んでいる。

今回の受賞は、これまで岩木健康増進プロジェクトで積み上げてきた健康ビッグデータを核にさまざまな研究成果が生み出され、世界的な有名企業も参画するなど、産学官民が連携してウェルビーイングを高めるイノベーション創出に向けた活動を展開していることなどが評価されたという。

村下教授は「今回の受賞を契機に、海外の有力大学との連携を深め、（本県の）短命県返上を含む地域の健康づくりに貢献しつつ、世界の人々のウェルビーイングに貢献していきたい」と話した。

（今井珠世）

弘前大学グローバルWell-being総合研究棟で、優秀賞の賞状を手にする村下教授